

平成31年度地方創生推進交付金活用事業の事業評価について

(1)競争力のあるオリーブ産地創り事業

	委員意見	市の考え方
1	オリーブは大変という声も聞いている。無農薬でやること、人的作業も大変なため補助事業に特化して行っていくことが必要	新たな産物として、オリーブを生業としている方はいませんが、複合経営の一つとして捉えている方が増えています。 景観作物であったり、耕作放棄地の解消という部分ではオリーブはかなりのウェイトを占めているため、健康講座も含めて進めていきたい。 なお、産業の成り立ちという部分については難しいと考えている。
2	オリーブを作る方への働きかけの事業で、オリーブを食べると健康になるということについて、もう少しストーリー性が必要。	オリーブをやり始めた理由は、市長がイタリアのミラノ万博に行き、その後、オリーブの産地であるペイザロと姉妹都市を結びました。掛川市でオリーブが生産され、お茶を飲みオリーブを使った料理をいただくことで、高血圧や糖尿病の防止、生活習慣病等に役立ち、両方が健康になることを意味している。イタリアとの連携という部分も含めて産業の協定を結んでいるので、県内もしくは県外にストーリー性を含めて出していこうと考えている。

(2)森の力で地域創生事業

	委員意見	市の考え方
1	平成30年度に複数の事業が実現したことは、評価できる。新規参入のサポートを続けて行くことが大事。	新規参入のサポートは、一過性にならないように、地域とNPO、色々な方が同じ目的のもとで、新しく参入してくる方を支援していく。
2	市等が、事業が拡大していくに連れて、開業された後のフォローを続けて行くことが大切。	市のサポートはあくまでも後から背中を押す程度のサポートであって、自律的に商売になる事業としていくための部分はNPOを中心に関係者が汗を流すことが大切だと考える。
3	すぐに収益が出るものではない。これからも持続していくためには収益が出るようにしっかりしておかないと、難しいと思う。	ソフトが絡んだ仕事は、担い手として関わっていただけることが大事。 費用対効果で自立できるようになるためには、もう少し時間がかかると考える。 今後の拡大発展についてはNPO、地元の皆さんと共に行政も支援しながら続けて行く。

(3)日本一から世界一へ！掛川茶輸出戦略推進事業

	委員意見	市の考え方
1	海外に向けて高品質な緑茶で、高い取引をしていただくところに、戦略的にやっていく必要がある。	海外向けの農薬基準に合った形の補助を出している。
2	2番茶のいいところ3番茶のいいところという形で、もう少し具体性を持たせた販売戦略をしていくことが、作る側の戦略には必要。	2番茶3番茶を含めた部分は、我々行政がなかなか入りにくい部分と指導しにくい部分がある。
3	世界遺産を持っているため、高いブランド力につながると思うので、それを茶草場テラスを含めてうまく生かして行くことが大事。	行政のできる範囲のことをとにかくやっていく。農協、茶商の皆さん、生産者のご意見も聞きながら、各工場を回っているので、丁寧に進めて行く。
4	茶草場農法、栗ヶ岳のお茶ということで、ふわりと茶葉という絵本が出ており、子供たちの未来にとって、もっともっとアピールする必要がある。	茶商組合の方からも、急須やリーフ茶をお母さん世代にもきっちりと教えて、尚且つ子供にも教えていくことが必要で、我々行政だけでなく、関係者がそういった事業を実践的にやっていただくことが、一番効率がいいと考えている。